



NPO法人

子どもセンター / パオ

Newsletter

vol.30

「ぴあ・かもみーる」日記⑪●

パオ10周年記念イベントリポート●



パオの
現いま

「ぴあ・かもみーる」日記 ⑪

私は大学卒業後の今年4月から「ぴあ・かもみーる」でスタッフとして働き始めました。気づけば5カ月が過ぎようとしています。

4月当初、4名の利用者さんが在籍していました。私自身人見知りのため、緊張せず話せるようになるのには少し時間がかかりましたが、そんな私に探り探りながらもそのうち気さくに話しかけてくれたのがAさんでした。

Aさんは雨が降っていると「送って行ってよ～」と言いながらもカッパを着て自転車でアルバイトにしっかりと通っていました。自分の携帯電話を購入した時の嬉しそうな表情がとても印象に残っています。

Bさんは、私が初めての宿直勤務の日に、スタッフルームへ来て「頑張って～！」と笑顔で言ってくれました。体調が悪いと人一倍スタッフに甘えながらも、次の日にはアルバイトへちゃんといく姿にはいつも感心させられます。

Cさんは、毎朝早く起きて高校へ通っていました。お弁当を作ったり、一緒にメロンパン作りをしたり、始めて食事当番として夕食作りの手伝いをしてくれたのがCさんでした。彼氏のことで一喜一憂し、青春を謳歌していました。

Dさんは私が働き始める前日に入所しました。初めはお互い人見知りのためか、私自身もなかなか距離感がつかめず、悩んだ時もありましたが、一緒にお菓子作りをしたりお話をしたりするうちにだんだんと打ち解けてくれました。最近では安定した生活を送る様子に私も安心しています。

あっという間に毎日が過ぎていく中で退所する利用者さんを送り出し、入所する利用者さんを迎え、また送り出し…。一人ひとり、旅立ちの形や入所の背景が全く異なる利用者さん達の生活を支援することは想像以上に想定外の出来事の連続でした。何が分からないかもよく分からず、何も出来なかったと自分に歯痒さを感じながら過ぎていった5カ月でした。利用者さんと笑顔で楽しく過ごせる時間もたくさんありました。利用者さんが嬉しかったことや楽しかったことの報告をする時の笑顔を見るのをとても嬉しく思います。

しかし、楽しい時間だけではなく、利用者さんの様々な姿で私自身も様々な感情を感じます。それは利用者さんも同じだと思います。それにしんどさを感じる時もありますが、そうやって毎日の生活で起こるひとつひとつの出来事や感情が、将来利用者さん達が社会で生きていく上で少しでも力になればいいなあと思うと同時に、私自身の成長の必要性を強く感じる日々です。

まだまだ足りない点も多いですが、スタッフとして、人として、相手から学び取る姿勢と感謝を忘れず一日一日を大切に利用者さんと過ごしていきたいと思っています。(スタッフS)

